

# 蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成25年5月17日発行

第6号

発行人 校長 鈴木史良

## 体験した学びの価値づけ

— 体験した意味を考え、豊かな学びにつなげる —

5月8日から3年生は2泊3日で、9日から1年生は1泊2日、2年生は2泊3日で校外行事を行いました。どの学年も事故なく目的を達成し、無事に帰校できました。京都・奈良で、首都圏で、御殿場で、それぞれのねらいに沿ったすばらしい活動ができました。生徒たちも、普段の学校生活ではできないような体験や生徒同士で寝食を共にしたことは中学時代のよき思い出になったかと思います。保護者の皆様のご協力、ありがとうございました。各学年の生徒たちの感想をご紹介します。

### 1年生の感想(御殿場・国立中央青少年交流の家泊)

- 私はこの2日間でたくさんの発見をすることができました。1つ目は友達の良いところをたくさん見つけられたことです。ふだんの学校生活ではできないようなことをやったことで、みんながふだんどんな感じなのかもよくわかるようになりました。

2つ目は友達の大切さです。校外学習はすべて自分一人では大変でつまらないことばかりだったと思うけど、クラス・学年の仲間がいたから、とても楽しく過ごすことができました。発見の多い2日間だったと思います。

### 2年生の感想(東京・代々木オリンピックセンター泊)

- 東芝科学館を見学。カーネーションや風船を液体窒素に入れてさわったり投げたりすると、バラバラになったり割れたりして、カーネーションは中の水分が凍って割れて、ゴムボールや風船が割れたことがびっくりしました。特に磁石が浮いていて、高さを覚えて冷たい間ずっと浮いていたのがすごいと思いました。3Dは右目と左目の視差を考えて作っていて、初めて知ったので、聞けてよかったです。静電気の体験も見れたので良かったです。



土屋先生(演技指導)の話を聞く1年生



一流企業を訪問して話を聞く2年生



最古の木造建築、法隆寺を見学する3年生

### 3年生の感想(京都・京都ガーデンパレスホテル泊)

- 修学旅行で印象に残っているのは二つあり、一つは金閣寺です。足利義満が造営した北山山荘で、唯一解体をまぬがれた建物です。贅沢に金箔があしらわれた建物は湖面にきらきらと輝き、見るものを一瞬に魅了し、室町時代にタイムスリップしたようでした。もう一つの琵琶湖疏水は、学校で学んだ深良用水と比べるとどちらも生活用水として使われています。これらは、とても歴史を感じさせ、思い出に残る修学旅行になりました。

#### <深良用水と琵琶湖疏水> —— 持続可能な社会を築いた人々から学ぶ ——

##### ● なぜ3年生は琵琶湖疏水を見学したのか？

###### 1 深良用水

1670年当時、裾野市深良は近在の村々同様、慢性的な水不足により日照りが続くたびに干害が起り、村人たちを苦しめていた。だが、この窮状を憂えた深良村名主大庭源之丞が中心となり、箱根外輪山に隧道を掘って芦ノ湖の水を灌漑用水として麓の村々に通す難工事を完成させた。

###### 2 琵琶湖疏水

京都市は、江戸末期に起きた禁門の変(蛤御門の変)で市中の大半が焼け、明治維新と東京遷都に伴って人口が減少し、産業も衰退した。この窮状を憂えた第3代京都府知事北垣国道は、灌漑、上水道、水運、水車の動力を目的とした琵琶湖疏水を計画し、幾多の困難を乗り越えて難工事を完成させた。



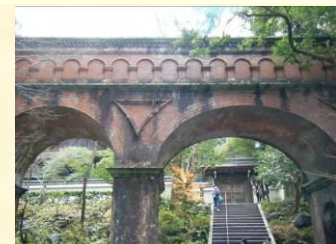
北垣国道

北垣府知事は、主任技術者として大学を卒業したばかりの田邊朔郎を任じ、疏水の設計監督にあたらせた。最大の難関は当時日本最長隧道であった第1トンネルの掘削工事だった。竖坑(シャフト)方式を採用するなどして5年の歳月をかけて全長2436mの隧道を完成させた。舟運のために閘門施設を設け、高低差がある場所でも舟を運行できるようにした。水力発電は当初の計画には存在しなかったが、田邊らがアメリカで視察したことが契機となり、蹴上に日本最初の商業水力発電所を建設。この発電所に水を引くため、この区間の疏水は舟の通行ができなくなり、代わりにインクラインを敷設して舟を運んだ。上水道施設としては、第1トンネル取水門(大津)で日本初の急速濾過式を採用した蹴上浄水場を建設した。

上記1、2に共通することは、江戸期、明治期の相違はあるものの、人々が困難に直面した時、そこから逃げるのではなく真摯に向き合い、困難を克服していった点である。換言すれば、人々がよりよく生きるため、持続可能な社会をつくるために努力を惜しまなかった姿を現代の私たちに示していると言える。この視点は、これからの社会を生きる若者たちに欠くことのできないものだと考える。単に先人の偉業という捉えだけでなく、これからの若い世代が難しい社会を生き抜く価値を見いだしたい。地球温暖化やエネルギー問題、宗教・民族の対立問題等をかかえる人類の一員として一つ一つの困難に対峙して英知を出し合い、克服していく力をこれらの事例を通して学ぶことができるものと期待している。



船を運んだインクライン



疏水が流れる南禅寺水路閣